



町で実施している事業

町では地域包括支援センターとともに、認知症について学べるさまざまな事業を実施しています。開催日時などは、広報お知らせ版などで随時周知します。少しでも興味のある人は、ぜひご参加ください。

当事者家族の声

認知症の実父を介護していたころを振り返り、「もっとこうすればよかった」と思うことばかり。本人も家族も穏やかに過ごすために、認知症を知る機会はとても大切だと感じています。

紺野 千恵子さん



認知症カフェ



「オレンジカフェもんも」の名称で開催。お茶飲みしながら認知症について語ります。次回は10月開催予定。

認知症サポーター養成講座



認知症について学べる講座。参加者には、サポーターの証「オレンジリング」を贈呈（随時開催しています）。

見守り訓練



認知症などの理由で行方不明となった人に対する、声かけの仕方や「見守り QR コード」の利用方法を確認。

チームオレンジ

■地域全体で認知症への理解を深めるために、各自治体が主体となり、地域で暮らす認知症の人とその家族の見守りや支援を行うことを目的に活動します。町では、令和7年度に発足予定。本格始動に先立ち、今年度から「チームオレンジこおりポイントカード」を始めました。町で実施している認知症に関する事業（イベント）に参加してポイントを集めると、記念品が贈呈されます。興味がある人は、健康福祉課（☎582-1134）または地域包括支援センター（☎582-1188）まで問い合わせください



チームオレンジこおりポイントカード

認知症についての
相談窓口

- ①かかりつけ医 ②地域包括支援センター ③役場（健康福祉課）
④ケアマネジャー ⑤町認知症初期集中支援チーム（公立藤田総合病院内）

自宅で生活している40歳以上で、認知症かもしれないと不安に感じている、または認知症の診断を受けているが医療機関への受診が途絶えているなどの場合、⑤支援チームにご相談ください（☎563-6763）

広告

広告

広告

約5人に1人は認知症になる将来

自分もなるかもしれない認知症について考えよう

年を重ねると体の機能は衰えていきます。脳も例外ではなく、脳疾患の一つ「認知症」も高齢になるほど発症しやすくなるのが国の研究で分かっています。厚生労働省によると、令和7年には、高齢者の5人に1人が認知症になる見込みで、将来の

患者数は年々増加していくと予想されています。町では、認知症に関する相談窓口や地域で見守る体制づくりを行っています。より身近なものになる認知症について、皆さんと一緒に考えていきましょう。

◆認知症とMCI（軽度認知障害）

認知症は、脳疾患により認知機能が低下することで日常生活の不具合が約半年以上続いている状態です。一方、MCI（軽度認知障害）は、日常生活に不具合は出ていないものの、認知機能障害が認められ、正常とはいえない状態です。MCIは、健常に戻る場合と認知症に移行する場合があります。認知症は「これをすれば予防できる」というものではありませんが、生活習慣の改善で発症リスクを減らすことはできるので、早めの対策が重要です。



■チェックしてみよう

大友式認知症予測テスト（認知症予防財団ホームページより）

質問項目	ほとんどない	ときどきある	頻繁にある
同じ話を無意識に繰り返すことがある	0点	1点	2点
知っている人の名前が思い出せないことがある	0点	1点	2点
物をしまった場所がわからなくなることがある	0点	1点	2点
漢字を書くときに思い出せないことが多くなった	0点	1点	2点
今しようとしていることを忘れてしまうことがある	0点	1点	2点
以前に比べ器具の取扱説明書を読むのが面倒になった	0点	1点	2点
理由もなく気分が落ち込むときがある	0点	1点	2点
以前に比べ身だしなみに興味がなくなった	0点	1点	2点
以前に比べ外出する気がおこらなくなった	0点	1点	2点
物（財布）が見つからず、誰かがどこかへやったと思うことがある	0点	1点	2点

★8点以下：問題なし 9～13点：要注意 14点以上：要診断